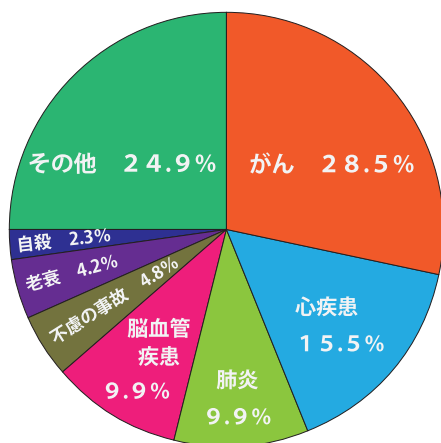


突然死は予防できる！

働き盛りに襲いかかる脳卒中や心臓発作
最先端の画像診断なら予測可能に！

●日本人の死因



平成 23 年度 厚生労働省 HP より

●なかでも突然死が増加傾向

死因第 2 位の心疾患と 4 位の脳血管疾患はともに突然死が多いことで共通していますが、どちらも動脈硬化が深く関係しており、近年、その数は増加傾向にあります。

なかでも、突然死の約半数をしめるのは心筋梗塞によるもので、40~50 代の男性を中心に毎日約 130 人が亡くなっています。次いで多い脳血管疾患では、運良く死を免れたとしても、麻痺や後遺症で要介護になる可能性が高いことが問題です。

●突然死は予防できないの！？

少し前までは、突然死は予測することは不可能だとされていました。しかし近年の CT や MRI などの画像診断の進歩によって、突然死の危険を計り、予防することができるようになってきました。

ところが健康診断や一般的な人間ドックでは突然死のリスクは発見できません。というのは、健診や人間ドックでは突然死のリスクを予測する検査はおこなわれていないのが現状だからです。

●それではどうすればいいの？

最近では、突然死のリスクを予測できる検査を実施する医療機関がでてきましたので、心配な方はぜひ一度受診してみることをお勧めします。

万が一、結果が悪くてもラッキー！すぐに治療を開始することで突然死のリスクを免れることが可能です。心配なしという結果でも、自分の状態がどうなっているのかを把握することができ、さまざま病気を予防することにつながります。

突然死は * 予防できる



心臓画像クリニック飯田橋
院長 寺島正浩 医師

働き盛りに襲いかかる脳卒中や心臓発作 最先端の画像診断なら、リスクも予測可能に！

予測不能とされていた突然死が、近年の画像診断によって予測できるようになりました。突然死のメカニズムはどうなっているのか、どのように診断するのかを、心臓画像診断では日本の先駆けである心臓画像クリニック飯田橋を訪ね、院長の寺島正浩医師に話を伺いました。

軽度の動脈硬化から起こる 突然死のメカニズム

突然死を予測することができ
るそうですが、どのようにし
て分かるのでしょうか？

寺島 画像診断を使います。
画像診断とは、体の外から診
るだけでは分からない体内の
様子を画像にして、実際に目
で診て病気があるかどうかを
診断する医療技術です。CT、
MRI、超音波検査など聞いたこ
とがあるかと思います。

突然死を起こす病変が見える
のですか？

とてもきれいに見えますよ。
突然死を起こす原因の約半分
は心筋梗塞ですが、心臓を取
り巻く血管が動脈硬化によっ
て細くなり、ある日突然に血
管が詰まることで起こります。
心臓が詰まるまで血管が細く

なると、さすがに胸が痛いな
どの症状がでてきますが、怖
いのはそこまで血管は詰まっ
ていないし、自覚症状もまっ
たくない状態でも、心筋梗塞
を起こして突然死することが
あることなんです。

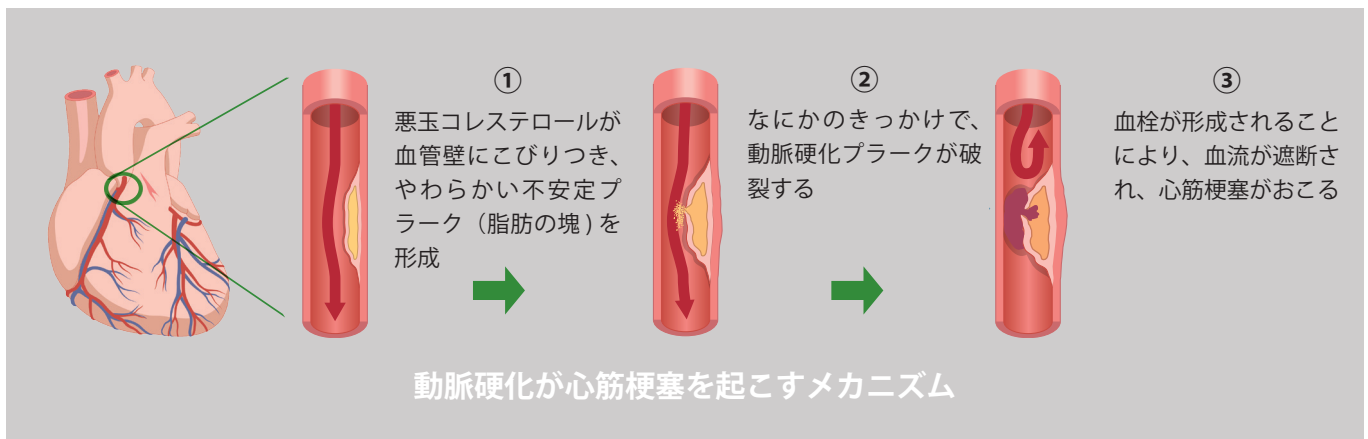
つまり動脈硬化はそんなに進
んでいないということですか？

その通りです。なぜかとい
うと、動脈硬化とは悪玉コレ
ステロールが動脈の壁にこび
りつくことで起こるわけですが、コレステロールは脂肪の塊(プラーク)ですからおかげのようによわらかく、なにかのひょうしで破裂することがあるんです。そうすると破れた部分を修復しようと血小板が血栓を作り、数秒で血管が詰まってしまうのです。これは軽度の動脈硬化でなにも症状がない人にも起こります。

それは脳血管疾患の突然死も
同じですか？

脳梗塞の場合は動脈硬化が
原因なのでほぼ同じですが、
心臓でできた血栓が血管を通
じて脳に運ばれて起こる場合
もあります。ほかに、脳出血(脳
溢血)は高血圧が原因のことが
多く、くも膜下出血は脳動脈
瘤が原因です。心臓に比べて
脳の場合は死に至ることは少
ないですが、麻痺が残って寝
たきりになったり、要介護状
態になることが多いのが怖い
ところですよ。





健診では避けたい 被ばくと造影剤副作用

CTやMRIでどうやって身体の内
部を画像化するのですか？

CTは放射線(X線)を使って、骨や石灰化は白く、空気を含む肺や脂肪組織は黒く、筋肉や血管壁などは灰色に表示します。

MRIは磁石の力を応用しています。心臓の壁や弁の働きがとてもよく分かり、コントラストの良い画像が撮れます。

CTは放射線を使うという和被ばくは心配ないのですか？

CTでは無症状の検診には少し多いかなという放射線被ばくがあります。ただ最新の機種ではかなり低く抑えることができるようになり、うちで使っているCTでは、検査にもよりますが、自然界で受けるのと同じくらいの被ばく量で済ますことができます。

ただCTで問題なのは造影剤の副作用です。これはヨード造影剤といって、腎臓から排泄されるため、腎臓が弱っている方だと腎機能が悪くなることがあります。またアレルギーを起こす方もいて、ひどくなると呼吸困難や意識障害になったり、まれにアナフィラキシ・ショックという蜂に刺されて急に命を落とすのと同じような強烈なアレルギーを起こす場合があります。

MRIならば被ばくや副作用は心配ないのですか？

MRIは被ばくはゼロです。多くの検査法があるので、詳しい検査をするときには造影剤を使います。これはガドリニウム製剤といい、CTほどではありませんが、まれに副作用を起こす方はいらっしゃいます。

造影剤なしMRIで 身体に優しい検診を実現

心臓画像クリニック飯田橋のドックについて教えてください？

当院のドックは造影剤を使わないMRIで実施するので被ばくも造影剤の副作用もありません。

造影剤を使わなくてもきれいに撮影できるのですか？

難易度は高いですが、リスクが少なく検診には最適な検査です。ドックでもまだ造影剤を使ったCTかMRIをやっているところが多いと思いますが、当院の場合は、MRIで心臓を診ることを誰もやっていないころからやっていたパイオニアですからノウハウの蓄積があるんです。

どのドックがお勧めですか？

私が循環器の専門医なので、やはり心臓ドックをお勧めします。当院では保険診療もおこなっていますが、大学病院

や基幹病院から毎日多くの検査依頼がありますから、心臓検査の実績では自信があるんです。
脳ドックはどうですか？

当院の脳ドックは循環器内科的な脳の評価がおこなえるという点で、脳神経科の脳ドックとはちょっと違います。MRIだけでなく、普通の脳ドックではおこなわない心エコーをおこない、画像診断医と循環器内科医が診ることで、共通点の多い脳と心臓を一度で診断しています。

脳と心臓を診て、さらに動脈硬化を徹底的に診断するプレミアム・ドックというコースは特にお勧めですよ。

受診したほうがいいのはどんな方でしょうか？

現在は、若くても突然死の危険が高くなっています。自覚症状がなくても、動脈硬化は40歳を過ぎたら急激に進みますから、その年齢になったら、誰でも一度、自分の動脈硬化がどうなっているか調べてほしいですね。

